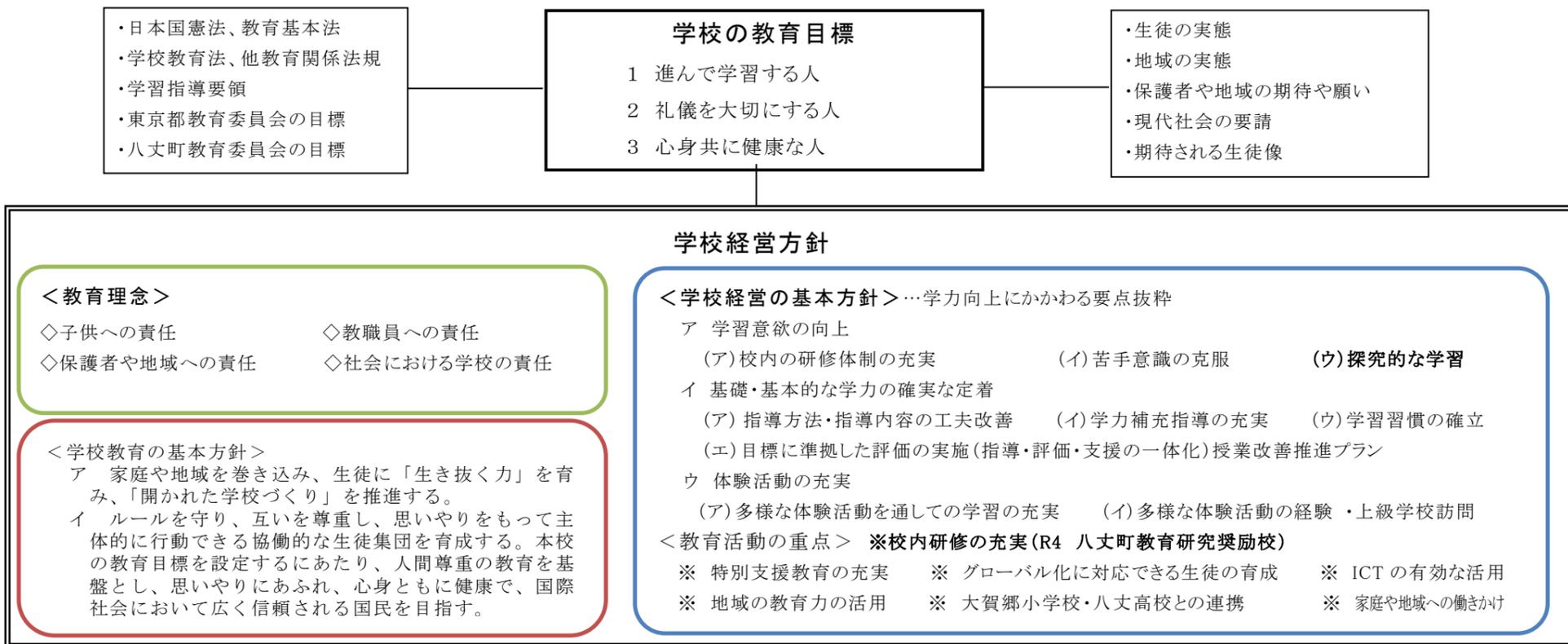


学力向上を図るための全体計画



各教科の指導の重点

基礎的・基本的な知識、理解、技能、体力の向上を図るために、

- 学習に対する興味や関心を高められるよう、各教科で可能な限り体験的な活動を取り入れたり、情報機器の活用を推進したりするとともに、習熟の程度に応じたグループ指導、個別指導等、指導形態を工夫する。
 - 各教科・領域の関連する単元において、合科的な指導を取り入れる。
 - 国際理解教育の促進及び、英会話能力を育成するために英語科で ALT を活用した授業を行う。
 - 地域の教育資源を活用し、キャリア教育を通じて学習動機を自ら設定し、取り組む姿勢を養う。
- 主体的に学ぶ意欲や態度を育成するとともに、感動と達成感を体験できるように授業改善を図る。

カリキュラムマネジメント

自分の力で、解くべき課題が何かを決めて、自ら設定した課題を解き切る経験を養う探究学習を実施するとともに、日常的な学習活動の中で知の統合を図る

探究学習 大中ラボ

関係機関との連携

「キャリア教育の充実」自分から課題を見つけ探究する過程で、情報の収集や分析といった知識や技能を身に付け、方策の決定と実行により課題解決ができる生徒の育成。アントレプレナーシップ教育の導入。

校内研究の推進

大賀郷学園として研究授業や協議を積極的に実施し、学ぶ教職員集団として新しい教育課題へ挑戦する姿勢を示す。理論や実態を踏まえ、生徒にとっての良い教育活動を追究する。

本校が目指す生徒像

「自分の力でたくましく現代社会を生き抜く生徒」

新しい時代を生きる生徒たちに必要となる社会に役立て**主体的に実践する能力**(考える力)、多様性を尊重し、人の気持ちを思いやる心、毎日の規則正しい生活習慣を身に付ける教育活動を展開する。
 さらに**地域の特性を生かした学習の提供と学び方を学ぶことにより、主体的に学習に取り組む姿勢の育成**に重点を置く。

基礎学力

- 意欲的に課題に取り組むことができる。
- 教科書レベルの文章をスラスラと読むことができる。
- 意味の通じる文章を書くことができる。
- 意思が伝わるように話すことができる。
- 話の内容を的確につかみながら聞くことができる。
- 基本的な計算をすることができる。
- 教科書に記載されている基本的な知識が身についている。
- 積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- 豊かな感性をもっている。
- 基礎体力が身についている。
- 調べたり、情報を選択したりするなど、学び方が身についている。

応用力

- 課題を見出すことができる。(課題発見能力)
- 物事の処理を迅速かつ的確に行うことができる。(処理力)
- 知識や経験を基に考え、まとめることができる。(思考力)
- 的確に判断し、行動することができる。(判断力)
- 説得力のある豊かな表現をすることができる。(表現力)
- 新しいものを創造することができる。(創造力)
- 環境に適応して行動することができる。(適応力)

言語活動

道徳の指導の重点 (抜粋)

人間としての生き方を考えさせるとともに、郷土を愛し、郷土の発展に寄与する態度を育てるために、道徳の時間の確保と教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図る。

特別活動の指導の重点 (抜粋)

心身の調和のとれた発達を促すとともに、個性の伸張を図り、豊かな人間性を育成する。

総合的な学習の時間の指導の重点

- 身近な「もの」や「こと」を具体的に、実感的に捉え、自分の興味・関心に基づいて追求することにより、課題設定、課題追求、課題解決能力を育成する。
- 社会的な責任を踏まえた意見や考えをもち、自己を問直し、前向きに社会と関わっていこうとする能力や意欲を育成する。また、地域の特色を理解し、地域と共に生きる生徒を育成する。

生活指導の重点 (抜粋)

豊かな学校生活を送らせるために、基本的な生活習慣を定着させ、社会生活における基本的なルールを身につけさせるとともに、生徒の自治能力の向上、教育相談の充実を図る。

進路指導の重点 (抜粋)

生徒の発達段階に応じて自己の能力や適性を把握させ、主体的に進路を選択・決定する能力や態度を育成し、生徒の豊かな自己実現を図る。

小中一貫教育カリキュラム

大賀郷小学校と連携し小中一貫教育カリキュラムを作成し、効果的な指導の在り方を研究する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標・各時間の目標を明確にする。 五感に訴える学習、体験的な学習を積極的に取り入れる。 習熟の程度に応じたグループ指導、個別指導等、多様な指導形態を取り入れる。 国や都の学力調査や町教研の共通テスト等の分析、生徒の実態に基づき授業改善プランを学期ごとに作成する。 一人一人のテーマ設定に基づく探究学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 週あたり 29 時間授業を実施し、授業時数を確保しながらゆとりをもって、授業を進められるようにする。 体力向上週間や複数回の体力テストを配置し、年間にわたって学校全体が体力向上の取り組みを行う。 「総合的な学習の時間」をはじめ、各教科等で地域の教育資源を生かした体験的な学習活動を計画的に配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実に向けて特別支援教育コーディネーターを中心として組織的な活動や研修の充実を図る。 研究授業を通して各自が主体的に自教科の授業の改善を図る。 実践的な小中一貫教育カリキュラムの見直しに取り組み、小学校と指導内容・方法の共有を図る。 表現力向上を小学校と共通研究テーマとし、研究活動を行う。 複数教科による 3 チームでカリキュラムマネジメントを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画と評価計画の一体化を図り、評価のフィードバックに力を入れていく。 より明確な評価規準・評価基準・評価から評定への総括方法の確立に向け、見直しを行っていく。 評価の精度をさらに高める工夫を進める。 生徒による授業アンケートを毎学期実施し、指導方法や授業進度の工夫等に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより・ホームページ・ブログを通し、学校の情報を定期的に提供していく。 学校公開を定期的に行い、外部の意見の吸収に努めていく。 保護者会・面談等を充実させ、連携を強めていく。 キャリア教育に関する教育活動については地域の人材を活用して指導する。 専門家等による出前授業により、本物に触れる機会を設定する。